

2014年8月14日 全6頁

## Indicators Update

### 6月機械受注

増加幅は限定的だが、先行きは緩やかな回復へ

エコノミック・インテリジェンス・チーム  
エコノミスト 久後 翔太郎

#### [要約]

- 2014年6月の機械受注統計によると、国内設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比+8.8%と3ヶ月ぶりに増加したものの、市場コンセンサス（同+15.3%）を下回った。4月（同▲9.1%）、5月（同▲19.5%）の落ち込みに照らすと、増加幅は限定的であり、機械受注は弱含みでの動きとなっている。
- 製造業は前月比+6.7%と、3ヶ月ぶりに増加した。非製造業（船舶・電力を除く）は前月比+4.0%と2ヶ月ぶりに増加した。
- 外需は前月比+62.8%と大幅に増加した。海外経済の回復を主因に増加基調が続いている。
- 内閣府公表の2014年7-9月期見通しでは、民需（船舶・電力を除く）は前期比+2.9%と2四半期ぶりの増加を見込んでいる。この数値は、7月から9月にそれぞれ前月比+2.5%の増加で達成可能となる。業種別に見ると、製造業は前期比▲0.5%、非製造業は同+2.2%を見込んでいる。製造業については減少を見込んでいるが、4-6月期の達成率が大幅に低下していることが影響しているとみられ、過度に悲観する必要はないだろう。

図表1：機械受注の概況（季節調整済み前月比、%）

	2013年			2014年									
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
民需（船電を除く）	0.3	5.1	▲1.1	0.9	6.5	▲12.1	8.1	▲4.6	19.1	▲9.1	▲19.5	8.8	
コンセンサス												15.3	
DIR予想												15.3	
製造業	5.5	▲1.2	2.2	3.4	0.5	▲7.8	4.9	▲4.6	23.7	▲9.4	▲18.6	6.7	
非製造業（船電を除く）	0.5	4.1	▲3.0	5.6	6.4	▲11.5	6.1	▲5.1	8.5	0.9	▲17.8	4.0	
外需	1.5	15.2	13.6	▲13.4	▲5.6	3.2	3.7	2.3	3.2	71.3	▲45.9	62.8	

（注）コンセンサスはBloomberg。

（出所）内閣府統計、Bloombergより大和総研作成

## 6月の機械受注は弱含みでの推移

2014年6月の機械受注統計によると、国内設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比+8.8%と3ヶ月ぶりに増加したものの、市場コンセンサス（同+15.3%）を下回った。4月（同▲9.1%）、5月（同▲19.5%）の落ち込みに照らすと、増加幅は限定的であり、機械受注は弱含みでの動きとなっている。

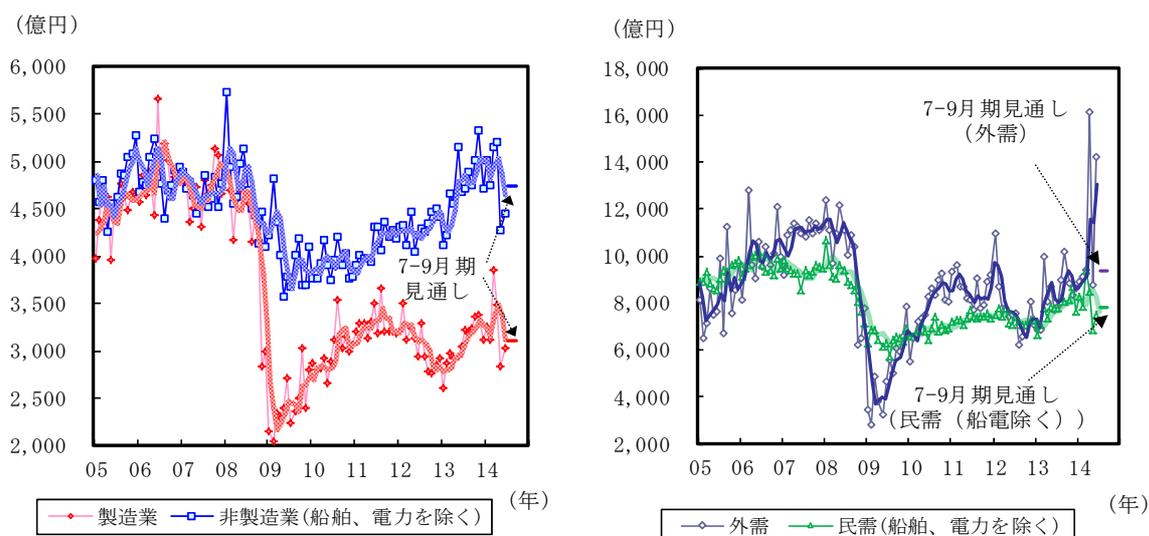
## 製造業：増加に転じるも力強さに欠ける内容

製造業は前月比+6.7%と、3ヶ月ぶりに増加した。ただし、前月に幅広い業種で減少していたことを考慮すると、力強さに欠ける内容であった。内訳を見ると、電気機械（同+24.6%）、その他製造業（同+17.6%）、精密機械（同+33.6%）、非鉄金属（同+40.3%）などの増加が全体を押し上げた。このところ弱含みでの推移となっていた電気機械や精密機械に下げ止まりの兆しが見られた。一方、化学工業（同▲26.5%）、パルプ・紙・紙加工品（同▲32.7%）、一般機械（同▲1.3%）などが減少した。

## 非製造業：2ヶ月ぶりの増加

非製造業（船舶・電力を除く）は前月比+4.0%と2ヶ月ぶりに増加した。建設業（同+26.2%）や卸売業・小売業（同+10.8%）の増加が全体をけん引した格好だ。

図表2：需要者別機械受注(季節調整値)

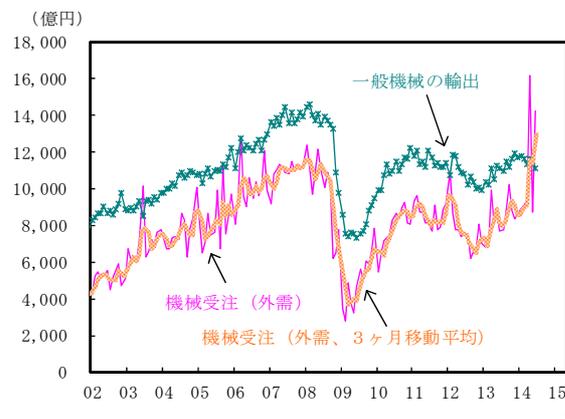


(注) 太線は3ヶ月移動平均線。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

## 外需：大型案件の受注により大幅に増加した模様

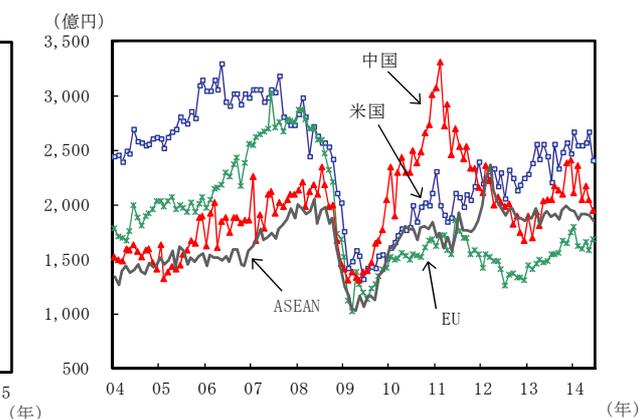
外需は前月比+62.8%と大幅に増加した。海外経済の回復を主因に増加基調が続いている。4-6月期に特殊要因により大幅に増加した反動で、7-9月期の見通しは減少に転じているが、均してみると増加傾向が続く格好だ。

図表3：一般機械の輸出と機械受注の外需



(注) 季節調整は外需は内閣府、一般機械輸出は大和総研。  
(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

図表4：一般機械の輸出金額（主要国・地域）



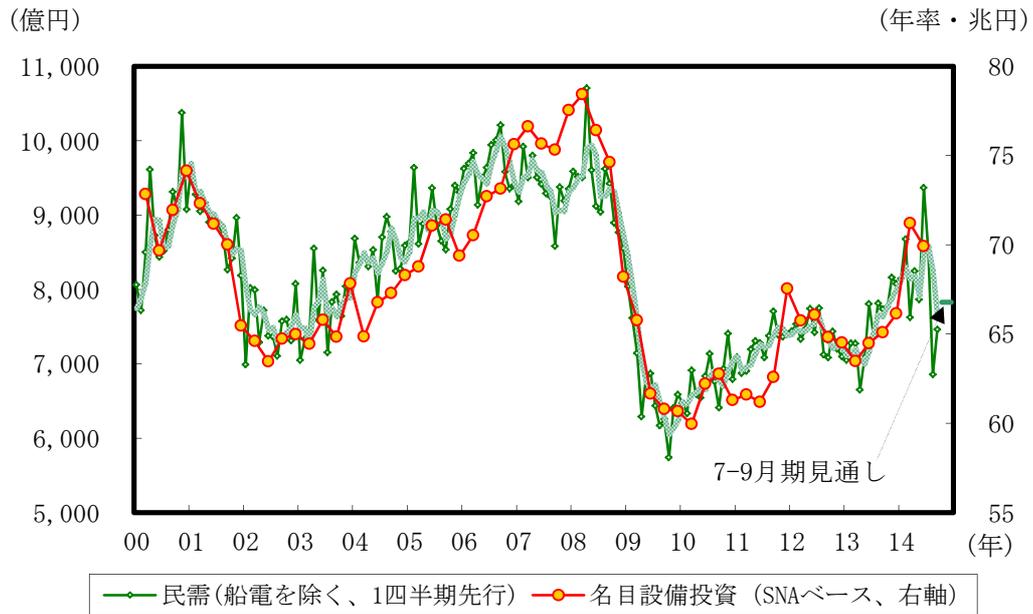
(注) 季節調整は大和総研。  
(出所) 財務省統計より大和総研作成

## 機械受注は7-9月期以降に増加基調へ復する算

内閣府公表の2014年7-9月期見通しでは、民需（船舶・電力を除く）は前期比+2.9%と2四半期ぶりの増加を見込んでいる。この数値は、7月から9月にそれぞれ前月比+2.5%の増加で達成可能となる。業種別に見ると、製造業は前期比▲0.5%、非製造業は同+2.2%を見込んでいる。製造業については減少を見込んでいるが、4-6月期の達成率が大幅に低下していることが影響しているとみられ、過度に悲観する必要はないだろう。

4-6月期のGDPにおける設備投資は減少に転じたものの、1-3月期の大幅な増加に照らすと、設備投資は上向きの動きが続いている。加えて、日銀短観などのアンケート調査によると、企業の設備投資に対する積極的な姿勢が示されている。製造業、非製造業とも企業業績が改善していることから、設備投資は増加に向かう環境が整っている。個人消費については消費税増税後の反動減から回復に向かうなか、設備投資も今後の成長の下支え役になるだろう。

図表 5 : 機械受注の民需と名目設備投資

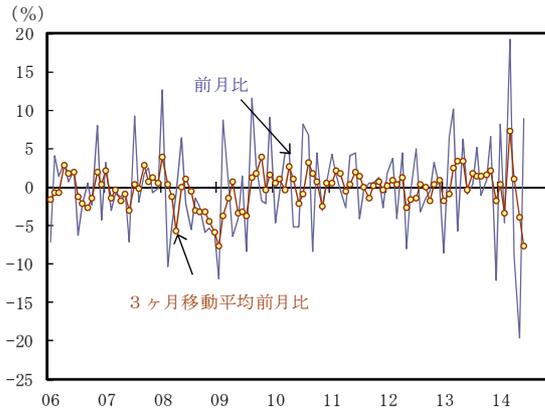


(注) 太線は3ヶ月移動平均線。

(出所) 内閣府統計より大和総研作成

概況

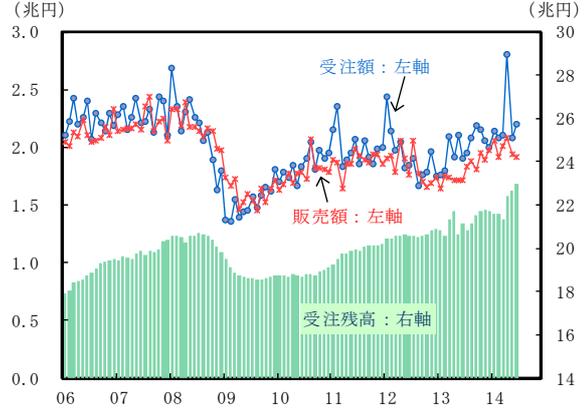
民需（船舶・電力を除く、季節調整済み前月比）



(出所) 内閣府統計より大和総研作成

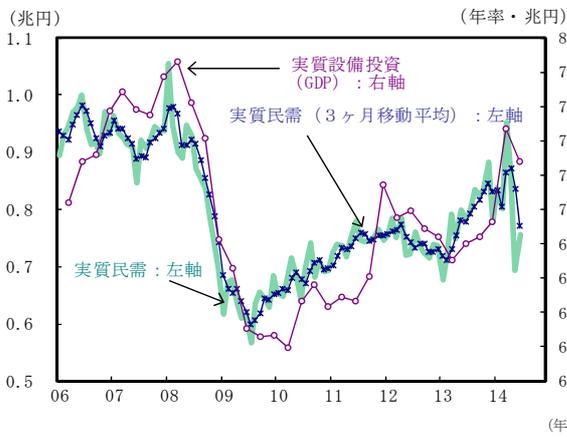
(年)

船舶を除く合計（季節調整値）



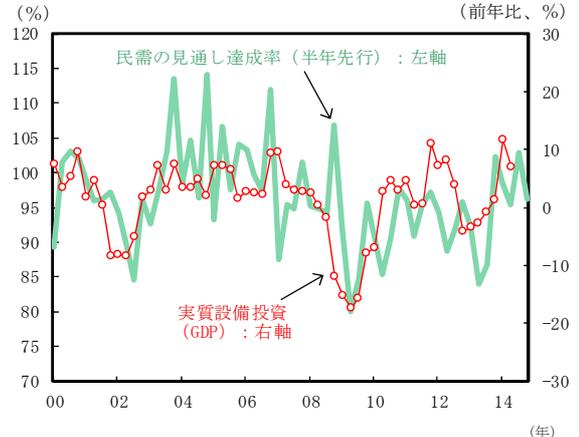
(年)

実質機械受注と実質設備投資（季節調整値）



(注) 実質民需は、船舶・電力を除くベースで、企業物価指数（日本銀行）の国内資本財によって実質化。  
(出所) 内閣府、日本銀行統計より大和総研作成

民需（船舶・電力を除く）の達成率と実質設備投資



(年)

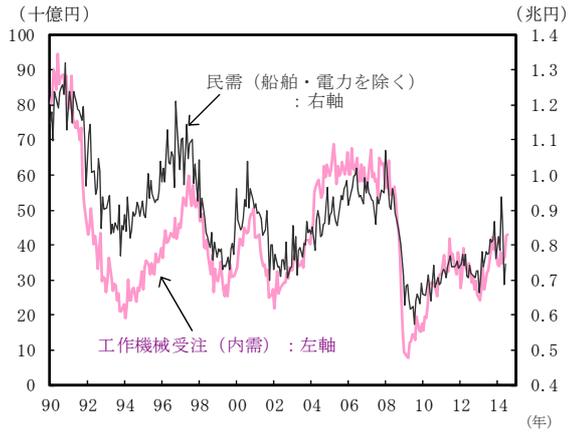
機械受注（季節調整値）と設備判断DI



(注) 設備判断DIの段差は、統計の基準変更に伴うもの。  
(出所) 内閣府、日本銀行、日本工作機械工業会統計より大和総研作成

(年)

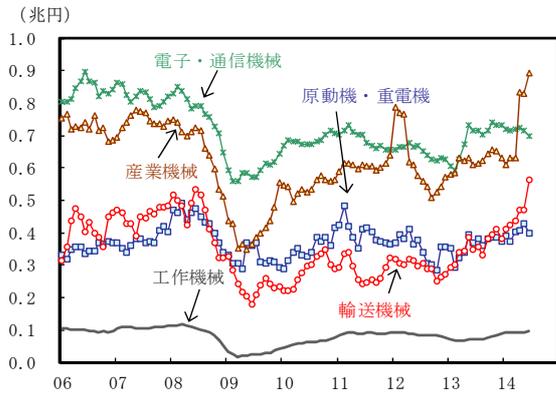
機械受注(季節調整値)と工作機械受注



(年)

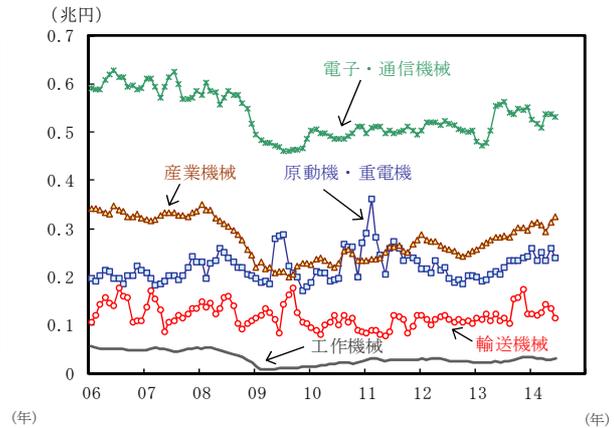
機種別と製造業・非製造業の動向

機種別・大分類の受注額（季節調整値）

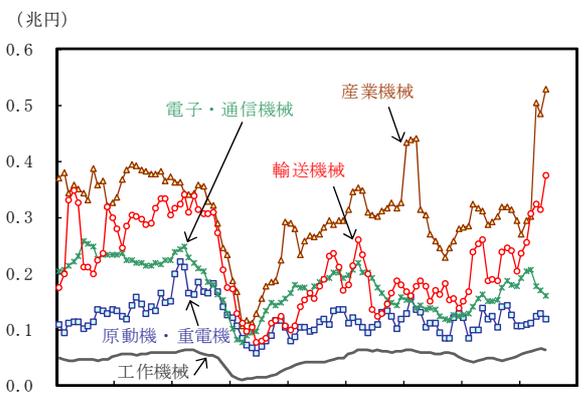


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・大分類の受注額【内需】（季節調整値）

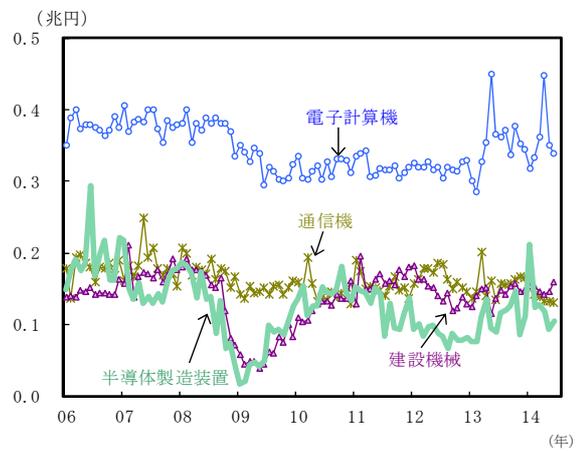


機種別・大分類の受注額【外需】（季節調整値）

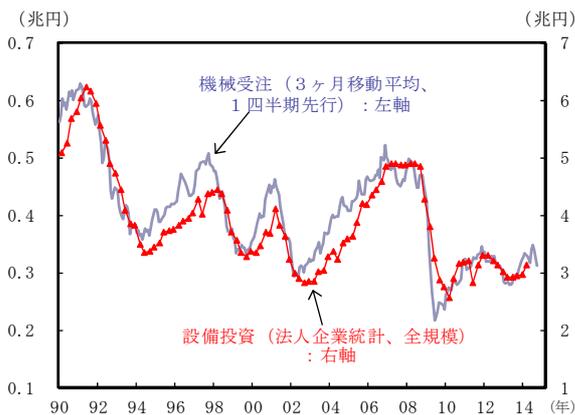


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・主な中分類の受注額（季節調整値）



機械受注と設備投資【製造業】（季節調整値）



(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

機械受注と設備投資【非製造業（船舶・電力除く）】（季節調整値）

